

414
A4657

謹で閣下ニ陳す 閣下草莽の書

生を棄てず風ニ一顧を垂れ辱く知を

賜ひてより十又四年思過骨ニ徹す生

ヲ感激禁じがたく時ニ教は襟を沾す

と云ふ由不幸生れて頑骨あり輒すく

門ニ趨るり才ニ忸れず偶にま高風ニ

匹づくゆ遂ニ衷情を謝するを能はざるなり

但密かに身ヲ期す若し異日在朝の

大官ニ屈するをありとせば則ち又閣下

ニ致さんゆけ孤節何人ニ許さん此を以て

陋劣疎才素より當世の器ニあらざると云

ふ別ニ僅かに此の頑骨を存し久しく

懐の政官には又閣下の為ニ役使せら



二致さん、お孤節何人ニ許さん、此を以て

陋劣疎才素より當世の器ニあらざらん

いふ別ニ僅かに此の頑骨を存し久しく

懐心政官には又此閣下の存ニ役使せら

れん隠士には又此海舟老伯ニ服せんと

此外嘗て要路の門階ニ近づくこと此

を以て孤棲自ら守り未曾て自ら薦め

ずはとひ若膝を抱きて老門ニ終らんと

亦此憾とせざらん也但今ま夫れ閣下初

めて新内閣を組織し四海を撥揚して

乾坤を轉ずるの慨あり正ニ是れ弟ニ維

新邦衆生面を開くの機をり厚知

輩又此一社の微力と云ふ亦此貢獻して

閣下の偉大ニ添へんとすも力をめざるはあ

らし生や則ち初て自ら薦め謹めて閣

下ニ陳す閣下や此の陋劣の才ありて

採らざるありとせば願は政府女子教育

の部面を用ひ矢政刷新の一役ニ加へ

不_レ陳す閣下かし此_レ陋劣の才ありて

採_ルべきありとせば願_ハは政府女子教育

の部面_ニ用ひ矢政刷新の一役_ニ加_ヘ

玉はんを然りと雖_レ此意其の出仕

ずらとせざるを問はず要は閣下當今の新

政_ニ對して老微力を傾盡し以て大_ニ女

学を改進せんとするの旨_ニ外志らず素より

決して微官の任_ニ入るもの_ニあらざる閣下

かし用_セば用ひ玉へ否とせば直_チニ

書を一大_ニ附し只願_ハは之を外人_ニ傳

へ玉ふと莫_レれ生_ニ在りては偏_ニ元_ニ閣下公

私_ノ恩_ニ酬_ハんと欲する者耳惟_ハは女学

界及基督教界の二方面_ニ於ては必ず

おや閣下、新政_ニ對して全力貢献を致

さんとを盟_ハは恐惶謹言

愚存副伸

一 大事の成敗多くは細事_ニ因由す

さんとを盟ふ恐惶謹言

愚存副伸

一 大事の成敗多くは細事の因由
如令政機の運用に妖助するや、婦女子
に及んば、此裏面の根柢を培養するは長
久且つ有力の方策なり

二 事を成さんとせば心を正むきよする勿れ
と小補善く之を言ひ、惟ふは直接政策
政派に關連せざる如き士人の内外に疏
通するありて、以てよく事物の真相を探知
し、情癖の摺績を散がらんとを得ん

三 將來の外交は偏僻せざる國體に
及せざる基督教と歩を同ふし、始めに便
利なる一

四 生は主として以上の三方面に於て盡
瘁せんことを望む、閣下若し華族女学校
及女子高等師範学校の二校に於て
兼ね用ひば、則ち採用を賜へずと

利志る一

四 生は五として以上の三方面に於て盡

瘁せんを望む 閣下若し華族女学校

及女子高等師範学校の二校に於て

兼ね用むべしとせば則ち採用を賜へずと

せば希は生を以て依然民間にありて

此の三方面に閣下命令を聞くとを以

せしめ玉へ

明治三十一年六月廿八日夜記

岩本善治

再拜

伯爵大隈相公閣下